

AromaOffice²Dを用いた 2 種類のクロス検索による 香気成分の分析

キーワード

Retention Index(RI)、マススペクトルライブラリー検索、AromaSearch、Unknowns Analysis、デコンポリューション、クロス検索、2次元GC

はじめに

GC-MSによる香気成分の分析においてマススペクトルのライブラリー検索は未知成分の同定に大変有効で欠かせない手法です。しかし、ライブラリー検索結果の一致度が低い、あるいは感度不足により良好なマススペクトルが得られないため、同定が困難となるケースが多々あります。このような場合、対象成分の保持時間から求めた保持指標RI (Retention Index) を用いて、その文献値や、データベースの値と照合して仮同定する手法が有効です。ここでは、香気成分に特化したRIデータベースソフトウェアAromaOffice²Dを用いた 2 種類のクロス検索機能による香気分析の応用例についてご紹介します。

詳細については、GERSTELバーチャル匂い分析ラボにユーザー登録の上、アプリケーションノート AN-J01/2020 をご覧ください。



MAKING LABS WORK

バーチャル匂い分析ラボ

